



SOUL

Vol.53 Summer 2020

スペシャル鼎談：

徳永二男 (ヴァイオリニスト)

堤 剛 (チェリスト)

練木繁夫 (ピアニスト)

**特集：コロナ禍における
クラシック音楽業界の動向**

**ベートーヴェンの
ピアノ三重奏曲は何曲あるのか？**

渡辺 和

音楽文化の源：

住友生命いずみホール



スペシャル・インタビュー

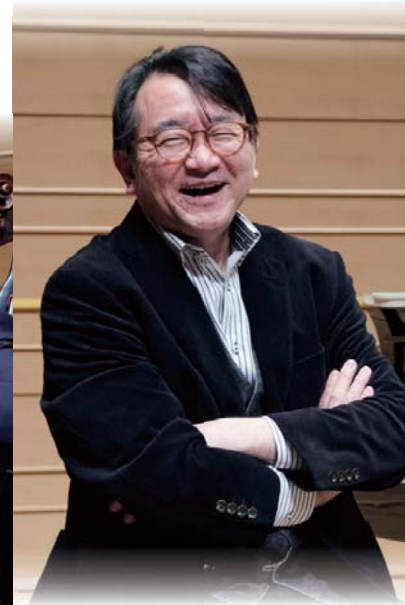
徳永 二男 × 堤 剛 × 練木 繁夫

(ヴァイオリン) (チェロ) (ピアノ)



「珠玉のピアノトリオコンサートVol.6」(会場:ヤマハホール2020.2.22) ©Ayumi Kakamu

室内楽によって観客に幸せを感じてもらうことが、我々演奏家の最たる目標。



練木繁夫さん

二〇二〇年二月に十周年を迎えた「ヤマハホール」。二月二十一日、その祝祭に日本が誇る徳永二男さん(ヴァイオリン)、堤剛さん(チェロ)、練木繁夫さん(ピアノ)の三人の巨匠が名曲を奏でる「珠玉のピアノトリオコンサートVol.6」が開催されました。前日に行われたリハーサルの後、ピアノトリオの魅力や室内楽の意義など、それぞれの思いをお伺いしました。



堤剛さん

演奏は会話ですから、いつも同じではないですね。――徳永
の経験を積んできたことも大きいように思います。だから、二年ぶりに会って新たな曲をすることになっても、それぞれの音を聴くと自分のすべき演奏法がわかる。ほとんど話さなくても会った瞬間に互いの気持ちがスッと自然と寄り合えるんです。
練木 それぞれ楽器は違うけれど、中心に音楽があつて同じ志が音となってピタッと合うのが非常に心地よくて楽しい。逆に話し合ってしまうと楽しくなくなるように思います。
徳永 学生には「徹底的に話し合って三人の考えを一つにしよう」というんですが(笑)。



徳永二男さん

徳永 二つあると思います。まず「久しぶりに会って室内楽で遊ぼう」という感覚なので、非常に楽しい。そして、もう一つは全員が学生時代に齋藤秀雄先生から様々なことを学び、室内楽の大切さを理解した上で、多く



堤さん

このメンバーならではの楽しみだと思います。
練木 バラバラな三人が、舞台では一つになれる。それが醍醐味ですね。また、その時々で雰囲気や演奏が微妙に変化するのがとても興味深い。先日の福井の演奏会では、堤さんのオーラがいつになく強烈だったんです。
徳永 「これは堤さんの語りかけがぐっと濃くなるだろうから、いつもとは違った演奏になるぞ」と覚悟ができる。



練木さん

こちらにも自然と気合が入りましたよ。
徳永 我々の支える気持ちも当然強くなりましたしね。
牧野 毎回変化するのは新鮮ですね。
徳永 そうですね。全力で弾くことに違いはないのですが、ホールの響きによっても多少変化しますし、なんといっても演奏は会話ですから、いつも同じではないですね。

もので、教えようがない。経験の積み重ねでしか身につかない部分だと思っています。
堤 ピアノトリオで演奏すると、三人の良い部分が集結した上にプラスαの素晴らしさも生まれて、新たな発見があつて非常に楽しい。ただ、そうしたことは練木さんが言われた教え

我々は長い間に一緒に演奏してきているので、音が出る前にそれぞれのことが理解できるのだと思います。
堤 海野義雄先生が「室内楽の極意は予測ができることだ」とよくおっしゃっていました。私

ドが予測できませんからね。やはり一緒に音を出したいと思うので、そうしたちよつとしたことを意識しています。
牧野 久しぶりに会っても阿吽の呼吸なのですね。
徳永 もちろん集まる前に、それぞれしっかり準備をしていますから、偶然合うというものはありませんけどね(笑)。
練木 個々のこれまでの経験がこの場で混ざり合って、コンサートとなる。それが感動となれば、最高の喜びですね。
牧野 リハーサルでも感じたのですが、非常に楽しそうですね。
徳永 お二人とのトリオは、自分一人では感じられなかったことや、表現できなかったことが実現できますから、私にとつては非常に大切な宝物です。
徳永 そうですね。

の場合には時々練木さんの指を見ます。そうすると弾くスピー

相乗効果の最たるものですね。

練習は「室内楽は一緒に音を出さなくてはいけない」と教えますが、そこに「一生懸命になりすぎると音が語ってくれなくなる。実際、自分が演奏をする時は、音が少々合っていないだけでもコンセプトさえ合っていれば、作曲家の盛り込んだ音楽が自然と奏でられることがあります。ただ、これは感覚的な

聞き手
【牧野 立太】 日本室内楽振興財団 常務理事
会場協力/写真提供:ヤマハホール
インタビュー撮影:平館 平

【練木 繁夫】(ピアノ)

1976年ツソソピアノコンクール、78年ピッツバーグピアノコンクールで1位。受賞を機に国内外の主要なオーケストラとの共演を果たす。76年よりチェロの巨匠ヤノ・シュ・シュタルケルと世界各地を公演し、絶賛を浴びる。93年サントリー音楽賞を受賞。90年シュタルケルと収録したCDがグラミー賞のソリスト部門にノミネートされ、97年にはオール・シューマンプログラムの「パピヨン」が、文化庁芸術祭賞作品賞を受賞。現在インディアナ州立大学教授、桐朋学園特任教授、国立音楽大学招聘教授、相愛学園大学客員教授、エリザベート音楽大学非常勤講師。

【堤 剛】(チェロ)

桐朋学園子供のための音楽教室、桐朋学園高校音楽科を通じ齋藤秀雄に師事。1961年アメリカインディアナ大学に留学、ヤノ・シュ・シュタルケルに師事。63年ミュンヘン国際コンクール第2位、カザルス国際コンクール第1位。2009年秋の紫綬褒章を受章。13年、文化功労者に選出。16年度毎日芸術賞受賞。インディアナ大学教授(1988~2006)、桐朋学園大学学長(2004~2013)を歴任。現在、サントリーホール館長、サントリー芸術財団代表理事、桐朋学園大学特任教授、霧島国際音楽祭音楽監督を務める。日本芸術院会員。

【徳永 二男】(ヴァイオリン・指揮)

1968年ベルリンへ留学。長年NHK交響楽団のソロ・コンサートマスターを務める。在団中からベルリンやカーネギーホールでの室内楽コンサートなど国内外で絶賛を博した。1994年N響退団以降、ソロや室内楽で目覚ましい活躍を続けており、モンテリオール響やイギリス室内管をはじめ多くのオーケストラと共演。1996年から宮崎国際音楽祭の総合プロデューサーを経て、2011年からは音楽監督を務めている。2016年には楽壇生活50周年を迎え、文化庁長官表彰を受ける。CDも多数リリース。最新盤は「徳永二男プレイズ R.シュトラウス ヴァイオリン・ソナタ」。桐朋学園大学特任教授。



奏時も三配りは常に意識していますね。

メカニズムを知らば、知識も広がり他楽器と調和できる。

練木

牧野 次に教育環境の変化についてお伺いしたいのですが…。

堤 以前、ドイツのアンネーゾフィー・ムターというヴァイオリニストの演奏を聞いて、とても素晴らしいと感じました。そんな彼女が、先日、サントリールホールのアカデミーでワークショップを開催してくれたんです。ヨーロッパでは、古くから音楽はみんなでシェアするものだという感覚が根付いているため珍しいことではないのですが、日本でもトップレベルの演奏家が当たり前のようにコーチをしてくれるようになったのかと感激しましたね。

徳永 室内楽は相手が何をしたいのかを互いに理解しなくてはいけないものですから、最初に教えるのは「気配り・目配り・心配り」の三配りです。アイコンタクトで互いの意思や行動を確認することが重要なので、演

なっていますし、学生自身も全体的に器用になってきている。

そうした意味で基盤が全く違って来たと思いますね。ただ、一つの懸念としては、ソロ楽器であるピアノ奏者が、他楽器奏者と一緒に演奏することの重要さを、どれほどわかっているかということ。ピアノストとしては、その重要性を伝えていきたいと考えています。

徳永 確かにピアノストは一人で弾く時間がほとんどですから、他楽器奏者と共演することとは必要でしょうね。

堤 弦楽器は室内楽だけでなく、オーケストラなどもある。でも、ピアノの場合、オーケストラでは弾きませんからね。でも、ピアノストだって、ヴァイオリンやチェロ、ピオラなど、多彩な楽器の音色を聴きながら演奏することは、感性を高める上でも重要だと思いますね。

牧野 他楽器との演奏は、自分の技術も磨かれるということですね。

堤 耳を育てるとでもいうのかな…。

練木 そうですね。ただ、聴く

姿勢というのは教えられないように思います。学生の身になつて聴くことはできないし、こう聴きなさいといつても漠然としすぎてしまう…。また「聴くことは音を合わせる」と勘違いしてしまふ場合もある。本来、聴くことは、単に音を合わせるためにする行為ではなく、その人の音色を感じたり、間を読み取ったり、あるいはクセを知るといふように複雑な作業なわけです。

牧野 なるほど。

練木 弦楽器の場合は弦が四本あるので、同じ音を四つ弾けますが、ピアノはそれができない。チェロには上げ弓、下げ弓があるけれど、ピアノにはない。よくみなさんが「ここはアップにする？ダウンにする？」とおっしゃっているのを聞くと羨ましいことがありますね。ピアノはスライドもなく、音をとるときは直線的に点と点を結ぶので、間というものもないんです。ないからダメだというのはなく、そういうメカニズムを知っておくことで、自分の知識も広がって、他楽器と上手く調和できるよう

になるのだと思います。

牧野 他を知ること、自分を知ることができるわけですね。

練木 ブラームスの第二番のソナタで、アップから入る曲があります。その音は空気をいっぱい含んだような音なのですが、メカニズムを理解して、真似をすればピアノでもできるように思います。ピアノの音色にないものを引き出して応用し、自分の音色を増やす。それが室内楽におけるピアノストの醍醐味なのではないかな。

牧野 そうしたことは学生に教えることは可能ですか？

練木 可能だと思いますよ。ピアノストは、一般的にチェリストの背中側にいますが、前方からチェリストの演奏を見せて教えれば理解するのではないかな。同じ音は出せないとしても、学ぼうという気持ちさえあれば、音に寄り添えるようになると思いますね。

堤 ピアノと弦楽器の違いを理解しておくことは重要でしょうね。例えば、ピアノは何オクターブもあるため平均律で調律しますが、弦は一番よく鳴



器の限界を乗り越えて、より高い音楽性へとつながると思います。以前、ホロピッツの演奏会の質疑応答の時、お客様が「あなたの演奏は飛躍があつて美しく歌につながる。どのようにすればそうできるのですか？」と聞きました。すると彼は「それは簡単なこと。強く思うことで」と答えました。練木さんが

先程おっしゃった気持ちという部分に通じますね。

牧野 演奏者の思いが良い音を奏でるのですね。

徳永 確かに心がつながると、演奏という音楽の会話がなめらかに奏でられるような気がします。

演奏家の気持ちが胸に届き幸福感を与えてくれる。——徳永

牧野 では、観客の気持ちを惹きつけるにはどういった要素が必要だと思われませんか？

徳永 やはり演奏家が音によつて、いかに自分の思いを観客に届けるかだと思います。作曲家が思いを込めて作った曲の楽譜を見ながら、演奏家は自分の気持ち音を音として伝える。そうすると観客との心のコミュニケーションとなるので、自然に惹きつけるのではないかと。

徳永 また、自分の奏でた音によつて観客に幸せを感じてもらうことが、我々演奏家の目標でもあるように思います。そのために、舞台上で濃厚な会話や軽快な会話を披露するのではなにかと。ただ、その会話を受け止めてくださるお客様がいることで、はじめて我々も気持ちが届けられる。ですから、お客様と一緒に会話に参加していただいていることだと思いますね。その会話が心地よければ惹きつけられますよ。私も音楽

祭などで客席に座って聴くこと
がありますが、とても幸せな気
分になる時がある。演奏家の気
持ちは私の胸に届いて幸福感
を与えてくれる。そういう力が
室内楽にはあるように思いま
す。

練木 惹きつけることに関し
ては、企画側も苦勞しますよ
ね。オーケストラのコンチェルト
というと、それだけで華やかな
イメージですが、室内楽はどう
しても地味な印象になる。演
奏側の我々は室内楽の魅力を
十分熟知していますが、それを
伝えるとなかなか難し
い。どの国でもマネジメント側
にとっては難しい問題になっていま
すよね。

牧野 そうですね…。
徳永 ただ、聴くことで観客の
耳が育つと思うので、室内楽の
魅力を知っている演奏家達が、
積極的に演奏の機会を増やし
ていくという意識は必要だと
思いますね。

練木 明日のコンサートの原典
であるJTホールのコンサート
は、徳永さんが筆頭となって企
画してくださいましたよね。一

ただ、演奏できる場が少ないと
いう問題があります。そうし
た意味でコンクールは非常に貴
重な存在。順位などの結果よ
りも、演奏して発表できる場と
いう点においても、コンクールの
存在意義があると思います。



練木 一九七〇年に東京クワ
レットが「ミュンヘン国際音楽コ
ンクール」で二位となった時はセ
ンセーションナルでした。そうした
素晴らしい演奏家が今は教え
る立場となっていますから、非
常に恵まれた環境になってきて
いますね。コンクールに関して
は、先ほど堤さんが「聴く人が
演奏したくなるような刺激を
与える」と話されましたが、そ
のようにコンクールでの演奏を
見て「室内楽を勉強して、あの
グループみたいになりたい」とい
うモチベーションになれば最高
ですね。コンクールの新たな意
義となるような気がします。

度開催したら大反響で、以来、
毎回大人気のコンサートとな
った。確かにこれは、かなりの影
響力があると思います。



徳永 良い演奏を届けるには、
尊敬でき信頼できる音楽家と
一緒に好きな曲をすることが一
番だと思っただけです。

練木 JTではチケットが二十
分ほどで売り切れるというこ
ともありましたね。

徳永 そうですね、続けるう
ちに毎回満員御礼になりました
だね。「あのコンサートなら良い
演奏が聴ける」という印象が根
付いたのではないかな。そうい
う意味では、聴く人の耳を育て
ることに貢献できたのかもし
れないですね。

**素晴らしい演奏家が今は教え
る立場となっている。——練木**

牧野 サントリーホールの「チェ

徳野 そうですね。

堤 コンクールの一つのメリッ
トとしては、入賞すれば名前が知
れ渡ること。お客様も「コン
クールで優勝した演奏者だか
ら聞いてみよう」と思うのでし
ょうし、売れることにつながっ
ていく。そうしたポジティブな要素
が多々あると思うので、今後も
多種多様なコンクールが増えて
いけば良いですね。

練木 ちょうど余談になります
が、学びの場としては岩崎淑さ
んと岩崎洗さんの「ミュージック
インスタイル」も素晴らしいかっ
たと思います。世界中からソリ
ストたちが集まって沖繩でキャ
ンプをしながら演奏するのです
が、そこに学生も参加できたの
です。彼らからすれば今まで話
すことも出来なかつた一流の演
奏家と共に室内楽が学べたの
ですから、相当な刺激になったと
思います。きっと二生忘れられな
い経験になったでしょう。

徳永 奥志賀で小澤征爾さん
が主催している「小澤国際室内
楽アカデミー」も世界中から優

ンパーミュージック・ガーデン」も
今年で十周年ですよ。

堤 はい。これも回を追うこと
に観客数が増えています。お客
様の中にはご自身でクアルテッ
トやトリオを組んで演奏する
という方も多いので、私達の演
奏を聴いて「良い曲だな。自分
達もやってみよう」と思ってい
ただければ演奏家として本望だ
と思っています。また、そうして
観客の気持ちを刺激すること
が、このコンサートの大きな役
割でもあるように感じしていま
す。一方で、ヤマハホールにお
いて、徳永さん、練木さんとい
う素晴らしい演奏家と共に、観客
に「やってみよう」と思ってい
けるような演奏ができるのも
非常に幸せなことだと思います
ね。

徳野 観客の心を刺激するの
がコンサートの役割の一つなの
ですね。

堤 「大阪国際室内楽コンク
ール&フェスタ」などのコンクールに
おいても、突き詰めて練習を繰
り返してきたグループなら、本
番で全力が出せるでしょうし、
普段以上に特別な演奏ができ

秀な人々が集まって合宿で学
びます。そうした活動が広がっ
ているのは素晴らしいことですよ
ね。我々三人も練木さんの働き
かけで金沢の「青少年のための
アンサンブルのよろこびセミ
ナー」というレッスンを開催して
います。一昨年から始まったば
かりですが、ここからまた子供
達が育っていくと思うので、長く
続けていきたいと考えています。

堤 北陸は東京より後発です
が、金沢、福井と徐々に根付い
ていきます。第十回の「大阪国
際室内楽フェスタ」の第二次ラ
ウンドが富山と三重の二か所
で開催されるのは画期的ですよ
ね。東京、大阪などの都心部だけ
なく、様々なところを掘り起
しながら広めていくことに、大
きな意味があると思います。

**チャンスがあれば様々なこ
ろで演奏したい。——堤**

徳野 では、最後にこのトリオ
の今後の予定をお伺いしたいの
ですが…。

徳永 今年の六月に安曇野市
の豊科でまたトリオの演奏会

る時もあると思うんです。そん
な時は、間違いなく観客の気持
ちを刺激する素晴らしい演奏
になっているように思いますね。

徳野 コンクールといえば、二〇
一八年に葵トリオが「ミュンヘン
国際音楽コンクール」で二位を獲
得しましたよね。このトリオは
「サントリーホール室内楽アカ
デミー」で育ったと聞いており
ます。日本の教育環境のレベ
ルアップが感じられますね。

堤 六月の「チェンバーミュージッ
ク・ガーデン」では葵トリオが演
奏してくれる予定になっていま
す。「ミュンヘン国際音楽コンク
ール」で優勝したようなハイレベ
ルなグループが気軽に参加して
くれるというのも、環境の変化の
現れといえるでしょうね。



徳永 我々それぞれが教えて
いる大学でも、良い音楽家を育
てるには室内楽は非常に大切
だと感じ、重要視しています。

を開催します。熱狂的なお客
様がおられるので、お二人にお
願ひして一緒に演奏していただ
くことになりました。ペーター
ヴェンの大公トリオとチャイコフ
スキーの英雄などを演奏しま
うかと計画中です。

堤 このヤマハホールでのコン
サートも、今後、毎年続いでい
くでしょうし、これをベースと
しながら、チャンスがあれば様々
なところで演奏したいと思っ
ています。

練木 三人一緒もあるだろう
し、堤さんと徳永さん、堤さん
と私、徳永さんと私というよう
に、いろいろと関わりあいな
がら、これからはずっと演奏を続
けていきたいと思っています。

徳野 様々な形
で交流し、演奏さ
れることで、そ
からまた室内
楽の輪が広がっ
ていくことに期
待しております
。本日はお忙し
い中、貴重なお
話をありがとうございました。



※2020年2月21日実施のインタビューに基づいた記事です。
その後の新型コロナウイルスの世界的流行により、記事中に
記載のある第10回大阪国際室内楽コンクール&フェスタを
はじめとする各演奏会は延期または中止となっております。

国内動向—音楽家と保証なき自粛と…

小室 敬幸 (音楽ライター)

二〇一九年十二月以降、中国湖北省武漢市にて原因不明の重症肺炎が流行。日本でも発症日を基準にみていくと二〇二〇年二月十四日以降、徐々に感染者数が増加していった。特に指定感染症になった二月以降は一日あたりの感染者が二桁に常態化。それでもコンサートはほぼ通常通りに開催されていたが、二月十五〜十六日に大阪のライブハウスでクラスターが発生し、大々的に報道されると流れが変わってくる。

二月二十日には厚生労働省から一律の自粛要請は行わないと発表があるも、二十六日になると首相自ら「多数の方が集まるような全国的なスポーツ、文化イベント等については、大規模な感染リスクがあることを勘案し、今後一週間は、中止、延期又は規模縮小等の対応を要請」することとなり、オーケストラのような大きな公演から順に中止が増えていく。例えば、新日本フィルハー

モニ交響楽団は二十八〜二十九日に予定されていた公演について、指揮者が来日できなくなったために代役を立てて初日は開催したが、二日目は中止となってしまっている。このように現場では開催するか否かギリギリの判断が繰り返された。既に来日済みであったパリ・オペラ座バレエ団（東京文化会館）や、反対に海外ツアー中だったNHK交響楽団は三月頭まで予定通りの公演を実施している。三月半ばに公演が実施されたアンドラーシ・シフは例外的なものだったといえるだろう。

三月に入ると小ホールの規模かつ少人数で演奏される公演でも相次いで公演の中止や延期という判断がくだされ、海外アーティストの来日中止も次々発表されていく。そんななか話題を呼んだのが、無料のライブストリーミング配信だった。三月一日に音楽事務所



東京交響楽団はニコニコ動画で独自チャンネルを開設

アーティストを社長宅に集めて、演奏付きトークライブを配信した例もあるが、より話題になったのは無観客公演の配信だ。三月七〜八日のびわ湖ホールによるワーグナー『神々の黄昏』は、延べ三十三万人のアクセスを記録。東京交響楽団は、ドワンゴの代表取締役社長CEOが理事のメンバーに在る強みを活かして三月八日と十四日にニコニコ動画で配信。延べ二十万人のアクセスがあり、十四日の方は「投げ銭」システムが導入された。東京・春・音楽祭のように国内アーティストによる無観客無

料配信と対策を講じた通常公演を組み合わせた例もあったが、三月二十七日以降はすべて中止になり、同日には五月のGWの恒例であるラ・フォル・ジュルネの開催中止が発表になる等、無観客であるかどうかを問わず、公演自粛の流れが決定的になっていった。こうして四月七日の緊急事態宣言発出以前から、音楽家たちのステイホーム期間は始まっているのである。そして長引く自粛によって、大きな支援団体を持たないオーケストラを筆頭に存続の危機が叫ばれるようになっていく。

五月半ば以降に順次、緊急事態宣言が解除されていき、六月に入ってから海外の事例を参照しつつ、どのような形態ならばソーシャルディスタンスを保ちながら公演が実施できるのか？……この記事を執筆する六月半ば現在、ホールで実証実験をしながら皆が模索している最中である。

日本

活動再開に向けて動き出すドイツとオーストリア

欧州

中村 真人 (音楽ジャーナリスト/ベルリン在住)



ベルリン・フィルのヨーロッパコンサート2020から © Monika Fittershaus

ドイツのコンサートホールと劇場の公演が中止されてから三ヶ月近くが経過し、現在各音楽団体は活動の本格的な再開に向けて動き出している。ここでは、ベルリン・フィルとウィーン・フィルというドイツ語圏を代表する二つのオーケストラの動向を紹介しながら、コロナ禍における現状と今後の展望を見てみたい。

ベルリン市がコンサートホールと劇場の全公演を中止にする措置を発表した三月十日以降、ベルリン・フィルは活動休止を余儀なくされていたが、五月一日に大きな突破口を開いた。

当初イスラエルのテルアビブで行われる予定だったヨーロッパ・コンサートを本拠地のフィルハーモニーにて無観客公演として実施したのである。ベルリン・フィルのインターネット配信「デジタル・コンサートホール」と公共放送にてライブ中継されたことに加え（コロナ危機以降、ドイツでコンサートが生中継されたのは初めてだった）、シユタインマイヤー大統領が開演に先立ち、「芸術と文化は副次的なものでないことを私たちはいま改めて実感しています。それらは生活必需品なのです」とスピーチをしたことにより、社会的にも大きなメッセージを放った。

その公演では、首席指揮者キリル・ペトレンコの指揮により、マーラーの交響曲第四番などが最大十四人の室内アンサンブル版で演奏された。五月七日には、シヤリテール大学病院がベルリンの七つのプロオーケストラとの実験協力により、「新型コロナウイルス（COVID-19）パンデミック期間中のオーケストラ業務に対する共同声明」を発

表。そこには、「弦楽器は二・五メートル、管楽器は二メートルの間隔を空けるべき」といった科学的知見に基づいた推奨条件が記されており、これが現在ドイツにおける舞台上演の二つのスタンダードになっている。

もう一つの基準を示したのが、オーストリアの名門ウィーン・フィル。彼らは独自の研究の結果、管楽器でも飛沫の距離は最大七十五センチに留まるとし、通常の配置でも演奏を行えると判断。それに基つき、六月五日にダニエル・バレンボイム指揮のもと、本拠地の楽友協会大ホールにて百人の聴衆を前にコンサートを再開した。



楽友協会大ホールのウィーン・フィル © Lois Lammerhuber

今後大きな課題となるのは、聴衆を入れた公演をどう行うかであろう。ドイツでは州ごとに事情が少しずつ異なるが、例えばベルリン市では七月末まで

この九月からの新シーズンでは、多くのオーケストラやオペラハウスが聴衆を入れた公演を再開していくと思われる。しかし、たとえ複数回の公演を行ったとしても現状では採算を取ることが難しい。ドイツには公的な資金で運営される常設の楽団だけで百二十以上もの数がある。今後財政難に

陥る楽団が出てくるのが予想されるが、この国の芸術文化の特徴である地域ごとの多様性を損なうことなく、コロナ危機を乗り越えて欲しいと切に願う。

米国 災転じて福となせるか?

徳永 慶子 (ヴァイオリニスト/米・ニューヨーク在住)

アメリカ合衆国で初のコロナウイルスによる死が確認されたのは二〇二〇年二月初旬。以来、コロナウイルスは驚異的な速さで米国内に蔓延し、五月末にはとうとう死者数十万人を超えてきた。中でも感染者、死者数共に最多となるのが私の住む街、ニューヨークです。

私は現在ニューヨークで、フリーランスのヴァイオリニストとして生計を立てています。特定のオーケストラに所属しているわけではないので、様々なコンサートシリーズや室内楽オーケストラからいただくアンサンブルやソロ、オーケストラのお仕事をさせていただく傍ら、ヴァイオリンのレッスンを時間の許す限り教える、というのがコロナ禍以前の私のスタイルでした。

ニューヨークの州知事が非常事態宣言をしたのが三月半ば。三月、四月に予定されていたコンサートの数々は瞬間に消滅し、続いて五月、六月、七月：じわりじわりと自分のカレンダーが真っ白になっていく恐怖は、普段ワークホリック気味



〇二〇年内の全ての演目をキャンセルすることを発表し、秋のコンサートシーズン中に大規模な演奏会を行うことへの危機感を顕にしました。おそらくニューヨークフィルやプロドウェイミュージカルなどの大きな団体は同じような結論に

達するを得ない状況にあり、またそれより小規模な団体も、ご年配のお客様が多いクラシック音楽界で、ワクチンが開発される前に演奏会を開催しても採算が取れないのでは、と懸念している状態です。ニューヨークに隣接するニュージャージー州で小さなコンサートシリーズを開いている私の友人は、二〇二〇年の三月以降に予定されていたコンサートは全て二〇二一年の始めに延期しなければならなかったと言っていました。

二〇二二年まで演奏の機会がないかもしれない。場合によってはもっと待たなくてはいいかなもしれず、コロナ禍による

日インターネットを通して発信されていく様を見ていると、人間の力強さと柔軟さを改めて確信することができ、自分にも何かできることはないか模索することが日課となりました。



日本でも多数見られたテレワーク合奏は、国境も時差も気にすることなく、気のあった仲間たちと共演気分を味わうことができます。私も及ばずながらいくつか制作しましたが、数ヶ月間ずっと独りで練習し続けてきた後に初めて他の演奏者の方のビデオに合わせて自分の音を鳴らすことができた時は、喜びのあまり涙が止まりませんでした。自分以

外の人間と呼吸を合わせ、力を合わせて音楽を創造することがこんなにも有難いことなのだ、生まれて初めて痛感した瞬間でした。

普段専門にしている分野以外のことで自分を表現し始めたアーティストも多数います。私の音楽仲間たちの中にもオンラインでヨガを教え始めた人や、自己啓発サロンを始めた人、料理のブログを始めた人など、今まで「時間がないから」と後回しにしてきたプロジェクトに打ち込む人が多くないように感じます。始めて間もないものが殆どですから、経済的にプラスになるからというよりは自分の表現欲求を満たしてくれ、いわば心の抛り所として扱っている人も多く、芸術や自己表現の新しい在り方がどんどん増えてきている傾向にあるようです。

コロナ禍によるもう一つの産物は、オンラインレッスンの増加と言えるでしょう。もちろんマンツーマンで実際に会ってレッスンすることに比べれば質は劣りますが、よほど若い生徒さんでな

ければ、大体のニュアンスは言葉と画面からの映像で通じます。また、お互い自宅からインターネットで接続するため遅刻や欠席がほぼ皆無となった上に、普段よりも多めにレッスンをスケジュールできるようなったのは、教える側にとつてはある意味大きなプラスであると言えます。今まではオンラインレッスンに抵抗があった方も、この状況にある以上他に手立てがないので始めた結果、「意外と便利で良い」と思ったださっているように感じますし、この機会を利用してヴァイオリンを始めた大人の生徒さんも増えています。

英語では一見災難の様に見えるけれど実は良い結果をもたらしてくれる物事を「disinfecting in disguise」と「変装したお恵み」と表現します。もちろんこのコロナウイルスの影響は非常に大きく、これからの経済や全ての産業のあり方に変化をもたらすものであり、沢山の人が未知なるものに立ち向かって行かなくてはならなくなります。しかし、この

経済的打撃の影響で様々なオーケストラやコンサートを企画する団体が消滅するかもしれない、という状況は、音楽家たちにとって二つのことを意味します。一つは言うまでもなく経済的な困難。二つ目は行き先を失った、自身の芸術を表現することへの欲求不満です。

人様の前でパフォーマンスをする、ということ自体が不可能な今、アーティストたちは様々な方法で自己の表現を試みています。パブリックシアターという小劇場は、テレワークなどでよく使われるZoomというオンライン通話ソフトを使用し、Zoomで行われる家族会議自体とコロナウイルス情勢をテーマとした演劇をYouTubeで発表し注目を集めました。Project Music Healsという団体は、インターネットを通してコロナ患者の方々、そのお世話に日々尽力する医療関係の皆さんのためにテレワークで無料コンサートを提供し続けています。数ヶ月前までは想像もできなかったような独創的なプロジェクトが世界中から毎

ような逆境に面しているからこそ、芸術はほとんど今までにない形へと変化していくのではないのでしょうか。「演奏する場所がない」を「演奏する場所を選ばない」に進化させることがキーポイントになっていくのかもしれません。私も小さな存在ですが、ヴァイオリニストとしてこれからのように皆様に音楽をお届けできる様になるのか、とてもワクワクしているところです。



徳永慶子(ヴァイオリン)

5歳でヴァイオリンを始める。17歳で渡米し、ジュリアード音楽院予科に編入。その後同学院より学士、修士号およびアーティスト・ディプロマを得る。2005年から19年までアタッカカルテットに所属。これまでに第62回グラミー賞室内楽・小編成アンサンブル部門受賞、第7回大阪国際室内楽コンクール優勝、メルボルン国際室内楽コンクール3位入賞およびABCラジオクラシックFM視聴者賞受賞。ソリストとしてはこれまでにスペイン国立管弦楽団、バルセロナカタルーニャ管弦楽団、ヴァージニア芸術祭オーケストラ等数多くの管弦楽団と共演。2007年のカーネギーホールでのデビューリサイタル以降多くのソロリサイタルも行っている。現在ジュリアード音楽院予科及びフォーダム大学講師。

米国ストリングス誌は彼女の演奏について、「しなやかに宙を舞いながら心の奥底まで問いかけてくるような音色が、純粋で透明な弓さばきによって彩られて観客を魅了した」と絶賛した。Instagramでは自身のイラストを掲載 @keikonomanga



ベートーヴェン肖像画(1803年)

◆ベートーヴェンのピアノ三重奏を聴いてみよう

世界中のコロナ・パンデミックで生誕二百五十年記念年も吹っ飛んでしまいそうなベートーヴェンだが、幸いにも後の楽聖が故郷ボンで洗礼式を受けたのは十二月十七日のこと。お誕生日まで、まだまだたっぷり時間はある。

三密回避を考えれば、団員や合唱団がギョウ詰めになる第九や歌劇《フィデリオ》で舞台

からのお祝いは

無理。となれば室内楽の出番である。なにしろ弦楽四重奏は、主要作品を演奏するだけでも立派に記念年祝賀になる東の横綱。そして西の正横綱が、ヴァイオリン、チェロ、ピ

アノが創り上げる小宇宙、ピアノ三重奏だ。長い巣籠もりが続く記念年の祝賀に、ベートーヴェンが遺したピアノ三重奏を全部聴いてみようではないか。

まずは定評のある演奏を、と往年の名団体、ボザール・トリオの全集と名打ったCDを手にとってみる。どっしりした五枚組だ。収録曲を眺めると、どうやら第十二番までであるようだ。番号がない曲もたくさん、なぜか交響曲第二番が入っている。

流石にCD五枚を聴くのはへ

ビーなので、同じボザール・トリオが若い頃に録音したもうひとつの全集にしてみるか。そちらはCD三枚組で比較的コンパクトだ。あれ、第十二番までしかないぞ。

なんだか良く判らないから、室内楽解説書の定番『最新名曲解説全集』(音楽之友社)を紐解いてみる。二十世紀後半の室内楽評論の重鎮、大木正興氏が担当する楽聖の項目には、「ピアノ三重奏曲(全七曲)」の解説が挙がる。

「ピアノ三重奏曲(全七曲)」の解説が挙がる。

◆音楽作品に付いた数字って……

些か煩雑になるが、音楽作品の名称とされる数字や番号について、ちよとと説明。クラシックの曲名といえば、交響曲第七番とかピアノ・ソナタ第三十二

番とか、「ジャンル名+番号」が

並ぶ愛想のないものばかり。同じベートーヴェンでも、名前らしい名前がある作品がひとつもないチェロ・ソナタに比べれば、《街の歌》《幽霊》《大公》と渾名付きが三曲も存在するピアノ三重奏は恵まれているかも。

ある時期までの音楽作品の名前とは、演奏者が勝手に呼ぶ渾名か、出版者が販売目的で付けたカタログ名だった。創作物に作者の知的所有権が認められたのは、やっと二十世紀に入ってから。以降の作曲家は、自分の新作に与えるキャッチーな題名に頭を捻ったり、完成した譜面の隅に敢えて素気なく「ソナタ第〇番作品××」と記したりして、創作物への権利を主張するようになった。

ところが二百五十年前の世界では、曲の終わりに小さく「偉大なる神に捧げる」と記したり、献呈者の名前を冒頭に

書くことはあつても、作品に自

分で曲名を記す習慣はない。十九世紀の初頭に、弦楽五重奏出版を巡る史上初の出版者との権利紛争でも知られる強者ベートーヴェンですら、手を離れた楽譜の扱いは無政府状態。となれば、目の前にある新作ピアノ三重奏の楽譜がベートーヴェン先生の何作目かなど、当時の出版者は確認などせぬ。何曲も収まる全集楽譜でもなければ、統一した番号を振る必要などないし。

作曲家にしたところで、自分が「第何番」を書いているかなど意識していない。だからこそ、第一番から三番までのピアノ三重奏曲集出版にあたり、若きベートーヴェンが栄光の「1」という作品番号(ラテン語で「作品」という意味のOpusから、Op.)と略表記される数字)を自分で記したことが、「これが僕最初の創作物なのだ」というプロとしての重大な決意表明となったのである。尤も、そんな作品番号ですら出版者が付けてしまつこともあるのだけだ。作品に付けられる数字には、「作品番号無し作品」(WoO)「

という奇妙なものもある。作曲

者や出版者が作品番号を付けた作品や未発表曲に、後年の研究者が与えた番号だ。ベートーヴェンの場合には、二十世紀前半に整理された体系的な番号が振られた。だが未発表作品はまだ出てくる。第二次大戦後にはスイス人研究者ヘスがヘス番号(Hess)を付与、作品番号もWoOもない断片にまで呼称を与えた。更に後の発見作品も加え八百四十九作を納めたピアノ番号(BE)が、現時点での最も詳細な数字となっている。

◆ピアノ三重奏曲は八曲α

音楽家たちが最も頼りにする譜面は、ドイツのヘンレ社が編纂出版する「原点版」だろう。ピアノ三重奏というジャンルだけで全三巻ある。ここに収まる作品がベートーヴェンのピアノ三重奏曲の全てと考えるのが、現状、最も妥当だろう。

では、全集楽譜を開いてみよう。冒頭の目次に、各作品の冒頭数小節と作品番号(Op、WoO、Hess)がズバリと並び、譜例の前に「から十四までの数字がある。どうやらこの全集編

第1巻	3. Opus1 Nr.3
1. Opus1 Nr.1	4. Opus11
2. Opus1 Nr.2	
第2巻	7. Opus97
5. Opus70 Nr.1	8. Opus121a
6. Opus70 Nr.2	
第3巻	12. WoO39
9. Opus44	13. Opus38
10. WoO37	14. Hess-Verz.48
11. WoO38	

ヘンレ社ピアノ三重奏曲全集目次より

《カカドゥ変奏曲》(全集ではII巻終わりの八番目なのに、何故か第十二番と記される慣例がある)の八曲までが、演奏会の華たり得るベートーヴェン作曲ピアノ三重奏曲といえよう。

全集III巻は落ち穂拾いだ。ボザール・トリオの全集CDに付けられた番号に従えば、第八番は不滅の恋人とも推察されるブレントナー夫人の娘のために《大公》翌年に綴った愛らしいアンコールのような小品。第九、十、十二番はボン時代の若書きである。第十番の四十四という作品番号は、なんと出版側が勝手に付けた数字。作曲者が七重奏曲をトリオに編曲し作品三十八とした大曲も、全集版に納まる(交響曲第二番も自分で編曲しているが、こちらは掲載していない)。

以上、生誕二百五十年記念年の時点で、「ベートーヴェンのピアノ三重奏曲は十二曲。普通に演奏されるのは八曲」と考えるのが妥当なところか。なお、七番以降はレコード会社や出版社での違いもあるので、「第〇番」と呼ぶのは第七番までにしておくべし。

第7回コンクール優勝

「アタッカ・クアルテット」がグラミー賞受賞!

クアルテットは、ニューヨークを拠点に活動する弦楽四重奏団で、大阪での優勝後はジュニアード音楽院でアシスタントとして室内楽を指導を行うとともに、二〇一四年にはメトロポリタン美術館のレジデンスを務めるなど、屈指の若手弦楽四重奏団として注目を集めていました。

今回はアメリカの新進気鋭の女性作曲家キャロライン・シヨウの楽曲を収めたCD「オレンジ」での演奏が評価されての受賞となりました。

大阪国際室内楽コンクール&フェスタの優勝者がグラミー賞を受賞するのは、今回が初めての快挙ですが、去年は第九回大会(二〇一七年)で優勝の「アイズリ・クアルテット」も同賞にノミネートされており、大阪のコンクール受賞者たちは世界の第二線でめざましい活躍をしています。

第十回コンクール&フェスタ大会には世界からどんな才能が集うのか、来年五月の大会が楽しみです。



第六十二回グラミー賞の発表が二月二十六日に行われ、第七回大阪国際室内楽コンクール(二〇一一年)で優勝したアタッカ・クアルテットが、室内楽部門で見事グラミー賞に選ばれました。アタッカ

音楽文化の源

住友生命いずみホール

企画部 広報編集グループリーダー 北嶋 優



住友生命いずみホール外観 © 榎川智昭

住友生命いずみホール

大阪府大阪市中央区城見1-4-70
TEL 06-6944-2828(代表)

住友生命いずみホールは、一九〇年四月にオープンした座席数八百二十の「クラシック音楽専用コンサートホール」です。公募で決定した「いずみホール」の名称は、湧き出る音楽の世界、心と心のふれあいの輪が波紋のように広がっていくのをイメージして付けられたものです。

形状は、ウィーン楽友協会大ホールをイメージしたシューボックスタイプ、ホール自体が二つの楽器となるよう設計されていて、ナラ材を使用した内装と音響効果を計算したシャンデリア、そしてホール正面に据えられたパイプオルガンがご来場のお客様には特に印象的なものとなっているようです。このパイプオルガンはフランス、アルザス地方のケーニヒ社製。フランス、ドイツ両方の特徴を備えたこの楽器は、多様なレパートリーに対応が可能で、二〇一八年のオーバーホールを経て「音色に輝きが増した」と奏者からもお客様からも好評を得ております。

開館以来「手作り企画」をモットーに、年間約三十回の主催公演を制作。音楽ディレクター磯山雅氏(故人)が打ち立てた音楽の

「原点」と「未来」を見据える。ふたつの柱は、三十年を経て「原点」は《古楽最前線》シリーズに、「未来」は《レジデント・オーケストラ》《いずみシンフォニエッタ大阪》による現代音楽の発信へと進化を遂げています。開館間もない一九九二年から現在までひきつづき開催している「ランチタイム・コンサート」は昼間のコンサートの草分け的存在。百回で勇退した目下部吉彦氏(故人)の後任として、現在は岡田暁生氏が企画・監修を引き継いでいます。また、「夜の公演に出掛けよう」というシニア層の声をきっかけに二〇一九年に始まった《午後の特等席》など、さまざまなお客様に音楽に親しんでいただけるようバラエティに富んだラインナップ、多彩なアーティストに登場をお願いしています。約百六十回の貸館公演と合わせて、年間約十二万人のお客様に足を運んでいただいております。

公益財団法人日本室内楽振興財団様とのかかわりでいえば、一九九三年開催の第二回「大阪国際室内楽コンクール&フェスタ」から数々の熱演の舞台となってきました。第二位のグループとは「グラ

ンプリコンサート2019は、二〇一七年に開催の「第九回大阪国際室内楽フェスタ」でメネーイン金賞を受賞したロシアの「デュオ・プロコピエフ・タフチャン」を招聘して行いました。このデュオは、恩師で、第四回フェスタで同じドムラとバヤンの楽器編成で優勝した「デュオ・ロマノフ・クガエスキー」による勧めにより二〇一〇年に結成されました。ドムラ奏者のアルチョムは、「私たちは年齢も若く、優勝できると思っていなかった。」と話していましたが、恩師と同じ賞を受賞できたという事は、デュオとしてのこれからの活動に大きな自信に繋がったようでした。



グランプリコンサート担当 柳 圭史

川公演は港南区民文化センターひまわりの郷、そして新たに宮崎公演を、小林市文化会館での開催が実現しました。各地のお客様からは、「ホールの隅々まで届くドムラの高音の響きに驚いた。」「バヤンの音を聴いて、ホールにパイプオルガンが設置されたかと思う程の音量にびっくりした。」など、楽器についての感想を数多く頂きました。またアンコールの「ふるさと」の演奏の時は、お客様の合唱もあり、聞く機会が少ないロシア民族楽器デュオの演奏を皆様に楽しんで頂けたと感じました。

今回の公演に際し、ご共催、ご協賛を頂いた皆様、また各地のホールの皆様のご尽力にあらためて感謝申し上げます。来年五月の「第十回大阪国際室内楽コンクール&フェスタ」で決まる新たな三組の優勝団体に

グランプリ・コンサート2019を終えて

今回のツアーでは、毎年開催して頂いている七会場と、益城町文化会館の改修工事のため二年連続となった広安西小学校、神奈



ご注目して頂き、今後のグランプリ・コンサートにご期待ください!

2019(令和元)年度 第2回理事会

開催:2020年3月5日(木) ホテルニューオータニ大阪
承認事項:①2020(令和2)年度事業計画書及び収支予算書 ②2019(令和元)年度臨時評議員会の招集と議題



2019(令和元)年度 臨時評議員会

開催:3月25日付決議の省略(定款第19条)／新型コロナウイルス感染防止のため
承認事項:①2020(令和2)年度事業計画書及び収支予算書 ②新任評議員2名の選任
新任評議員:塩山 幸助(西日本電信電話) 市川 紀征(野村證券)

2020(令和2)年度 第1回理事会

開催:6月8日付決議の省略(定款第35条)／新型コロナウイルス感染防止のため
承認事項:①2019(令和元)年度事業報告書及び決算報告書 ②2020(令和2)年度定時評議員会の決議の省略による決議 ③特別顧問及び選考委員の選任 ④諸規定制定
報告事項:①代表理事、業務執行理事選定 ②「第10回大阪国際室内楽コンクール&フェスタ」延期開催等

2020(令和2)年度 定時評議員会

開催:6月25日付決議の省略(定款第19条)／新型コロナウイルス感染防止のため
承認事項:①2019(令和元)年度事業報告書及び決算報告書 ②評議員3名の選任 ③理事・監事全員選任(改選期) ④諸規定制定
新任評議員:川口 真之(大林組) 原 俊一郎(読売テレビ) 菊川 雄士(読売テレビ)
報告事項:①特別顧問及び選考委員の承認 ②代表理事及び業務執行理事選定 ③「第10回大阪国際室内楽コンクール&フェスタ」延期開催等
上記定時評議員会及び6月29日付2020(令和2)年度臨時理事会(定款第35条・決議の省略)において承認された理事・監事及び特別顧問: ※は新任

会長 ※松本 正義(関西経済連合会、住友電気工業)
理事長 ※大橋 善光(読売テレビ)
常務理事 牧野 立太(日本室内楽振興財団)
理事 今井 敏之(大阪ガス) 彌園 豊一(関西電力) 山本 卓彦(サントリーホールディングス) 山中 斉(住友生命保険)
芝 道雄(ダイキン工業) 森 正伸(西日本旅客鉄道) 福田 里香(パナソニック)
※西尾 一泰(読売新聞大阪本社) ※菱田 義和(日本室内楽振興財団)
音楽理事 堤 剛(チェリスト、サントリー芸術財団)
監事 ※栗田 陽介(三井住友銀行) 吉田 満(読売テレビ)
特別顧問 山口 寿一(読売新聞東京本社) 大久保 好男(日本テレビ放送網)

2020(令和2)年度 助成金交付予定事業

2020(令和2)年度の助成金交付事業を決定する選考委員会を2月7日(金)に開催し、厳正な審議の結果、申請総数23件のうち9件が選考されました。

- | | |
|-------------------------------------|---------------------------------|
| ① SQS BEETHOVEN 2020 | ② 直方谷尾美術館 第39・40・41・42回室内楽定期演奏会 |
| ③ クローズアップおかげさ「アンサンブル天下統一2020」 | ④ ICEP2020 訪問プログラム・報告コンサート |
| ⑤ 月見の里室内楽アカデミー2020 | ⑥ ベートーヴェンの知られざる世界 |
| ⑦ ティモシー・リダウト ヴィオラコンサート&はじめてのヴィオラ | ⑧ spac-eコンサートシリーズ2020 |
| ⑨ スティーブン・イッサーリス 公開マスタークラス&曲目解題コンサート | |
- 〔選考委員〕 委員長 藤田 由之(指揮・評論) 委員 青澤 隆明(評論) 委員 小野寺 昭爾(大阪フィルハーモニー協会)
委員 沼野 雄司(桐朋学園大学・大学院 教授) 委員 横原 千史(評論) (敬称略、委員名50音順)

2021(令和3)年度 助成金募集について

募集開始:2020年9月1日(火) 募集締め切り:2020年10月31日(土)
お問い合わせ:公益財団法人 日本室内楽振興財団事務局 電話/06-6947-2183 HP/http://www.jcmf.or.jp



第10回 大阪国際室内楽コンクール&フェスタ

延期開催決定!

新型コロナウイルス(COVID-19)の世界的な流行に伴い、参加団体、審査委員、関係者の来阪が困難となったため、2020年5月の開催を見送りましたが、調整の結果、1年延期しての開催が決定いたしました。詳細は決定次第WEBサイト、SNS等で発表いたします。

2021. 5/16[日]▶23[日]

住友生命いずみホール

富山県高岡文化ホール／三重県文化会館 (フェスタ1次ラウンド)

スケジュール(予定)

日程	第1部門	第2部門	フェスタ
5/16(日)	1次予選		
17(月)		1次予選	
18(火)	2次予選		
19(水)		2次予選	
20(木)	3次予選		1次ラウンド
21(金)		本選	
22(土)	本選		
23(日)			セミ&ファイナル
24(月)	披露演奏会		
26(水)	東京披露演奏会		—

※スケジュールは予告なく変更となる場合があります。ご了承ください。



10th

Osaka International Chamber Music Competition & Festa

コンクール審査委員

堤 剛(審査委員長) (チェロ/日本)
マーティン・ビーヴァー (ヴァイオリン/カナダ)
ウェイガン・リ (ヴァイオリン/アメリカ)
澤 和樹 (ヴァイオリン/日本)
モニカ・ヘンシェル (ヴィオラ/ドイツ)
元淵 舞 (ヴィオラ/アメリカ・日本)
セッポ・キマネン (チェロ/フィンランド)
ヴァンサン・コック (ピアノ/フランス)
エッカルト・ハイリガーズ (ピアノ/ドイツ)
練木 繁夫 (ピアノ/日本)

フェスタ審査員

審査員長 梅本 俊和 (ピアノ、大阪音楽大学名誉教授)
副審査員長 河野 正孝 (オーボエ、関西室内楽協会代表)
ほか調整中

出場・参加団体

2020年5月に参加予定だった団体で調整中

第10回特設サイト

最新情報はWEBサイト、SNS等でご確認ください。
特設ウェブサイト <http://www.jcmf.or.jp/compefesta2020/>




地球上にはあらゆる国、様々な人たちが暮らしています。
 どこかの国のどこかの街では、私たちと違う時間の流れを過ごしてる事でしょう。
 見知らぬ建築物、違った言語や風習、行き交う人の雑踏。
 まるで街の営みが一つのオーケストラのようです。
 目や耳に入るもの全てに五感が刺激されて、身も心も満たされた気分に。
 私たちJTBは、特別な旅のお手伝いをしています。

街

は一つのオーケストラ。
 お気に入りを見つけない
 出かける旅。



JTB 大阪第二事業部

〒541-0058 大阪市中央区南久宝寺町3-1-8 (MPR本町ビル7階)
 TEL.06(6252)2711(代) FAX.06(6252)2790
 担当:有野 良一

公益財団法人日本室内楽振興財団 支援企業

- | | | |
|--|--|--|
| 大阪ガス株式会社
関西電力株式会社 | アサヒビール株式会社
サントリーホールディングス株式会社
ハウス食品グループ本社株式会社 | 非破壊検査株式会社
大塚製薬株式会社
住友化学株式会社
積水化学工業株式会社
武田薬品工業株式会社
日本ペイント株式会社 |
| 住友電気工業株式会社
ソニー株式会社
株式会社東芝
日本電気株式会社
パナソニック株式会社
株式会社日立製作所
富士通株式会社
ローム株式会社 | 東洋紡株式会社
株式会社ワコール
伊藤忠商事株式会社
岩谷産業株式会社
株式会社千趣会
三菱商事株式会社
川崎重工業株式会社
株式会社クボタ
ダイキン工業株式会社
日本製鉄株式会社
日立造船株式会社
三菱重工業株式会社 | 近畿日本鉄道株式会社
京阪電気鉄道株式会社
南海電気鉄道株式会社
西日本旅客鉄道株式会社
阪急電鉄株式会社
阪神電気鉄道株式会社
株式会社JTB
株式会社電通
株式会社ニュー・オータニ |
| 株式会社関西みらい銀行
株式会社みずほ銀行
株式会社三井住友銀行
三井住友信託銀行株式会社
株式会社三菱UFJ銀行
株式会社りそな銀行
住友生命保険相互会社
大樹生命保険株式会社
東京海上日動火災保険株式会社
日本生命保険相互会社
野村證券株式会社 | 株式会社日建設計
株式会社大林組
鹿島建設株式会社
株式会社きんでん
株式会社鴻池組
清水建設株式会社
大成建設株式会社
大和ハウス工業株式会社
株式会社竹中工務店 | KDDI株式会社
西日本電信電話株式会社
株式会社読売新聞大阪本社
株式会社読売新聞東京本社
日本テレビ放送網株式会社
讀賣テレビ放送株式会社 |

(関連業種別50音順)

C O N T E N T S

スペシャル・インタビュー 室内楽によって観客に幸せを感じてもらうことが、 我々演奏家の最たる目標。 出席者:徳永二男・堤剛・練木繁夫1	第7回コンクール優勝 「アタッカ・クアルテット」がグラミー賞受賞!14
特集 コロナ禍におけるクラシック音楽業界の動向 小室敬幸・中村真人・徳永慶子7	グランプリ・コンサート2019を終えて デュオ・プロコピエフ・ダフチャン(ロシア) 柳圭史14
ベートーヴェンのピアノ三重奏曲は何曲あるのか? 渡辺和11	第10回大阪国際室内楽コンクール&フェスタ 延期開催決定!15
音楽文化の源 住友生命いずみホール 北嶋優13	JCMF NEWS16 日本室内楽振興財団支援企業17

あ
と
が
き

2020年開催予定だった第10回大阪国際室内楽コンクール&フェスタは、新型コロナウイルス(COVID-19)の世界的流行に伴い開催が延期となりました。調整の結果2021年に延期しての開催が決定。特集の通り、文化庁をはじめとした各機関がガイドラインを発表、世界各国で「新しい演奏会」のスタイルを模索しています。コンクール&フェスタでも、参加者・関係者、お客様が安全に参加できるよう、準備を進めてまいります。



●編集・発行／公益財団法人日本室内楽振興財団
 〒540-8510 大阪市中央区城見1丁目3-50 読売テレビ本社ビル1階
 TEL.(06)6947-2183 FAX.(06)6947-2198
 URL <http://www.jcmf.or.jp>
 Cover Design : Mié
 *2019年9月1日より事務所を移転しました。
 VOL.53 令和2年7月10日



公益財団法人 日本室内楽振興財団